

麻疹(はしか)・風しんは予防接種で防ぎましょう!

麻疹(はしか) 風しん混合ワクチン(MR)

麻疹(はしか)・風しんの予防

麻疹、風しんとも気道分泌物の中に含まれるウイルスを介して感染する感染症で、治療は対症療法になります。

麻疹は感染力が強く、免疫のない人が感染を受けるとほぼ100%発症し、39℃以上の高熱と発疹、咳、鼻汁、結膜充血などが主な症状です。

風しんは、全身性で紅色の斑状丘疹状の発疹、発熱、後頭・耳後・頸部リンパ節腫脹の症状を特徴としており、妊娠初期の方が感染すると、出生児が白内障、心疾患、難聴などの障害が起こる先天性風しん症候群を発症することがあります。今年は風しんが全国的に多発し、県内でも風しんが全数把握疾患^{*}となった2008年以降、最多となりました。

^{*}感染症法により、医師に全数届出が義務付けられている疾患



麻疹・風しんの予防には、あらかじめワクチン接種により免疫をつけておくことです。

- 対象者** 第1期:1歳から2歳までの1年間
第2期:5歳から7歳で小学校就学前の1年間

- 接種回数** 第1期及び第2期の合計2回
※免疫の獲得には2回のワクチン接種が必要です。

※詳細については、お住まいの市町村予防接種担当課にお問い合わせください。

上記の対象者以外の方でも、風しんに罹患したことがない方、予防接種を受けていない方(特に、妊婦への感染を防ぐため、妊婦の夫、子ども及びその他の同居家族の方、妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い方及び産後間もない方)は、**接種費用は自己負担**になりますが、医師に相談の上、予防接種を受けることをお勧めします。

なお、妊娠希望者等の大人を対象として、市町村で接種費用を助成していることもありますので、お住まいの市町村予防接種担当課に助成の実施の有無についてお問い合わせください。

感染性胃腸炎にご注意!

感染性胃腸炎は、年間を通じて発生しますが、特に冬場に多く発生します。また、冬に発生する感染性胃腸炎は、ノロウイルスを原因とすることが多いのが特徴です。

学校、保育所、社会福祉施設などでは集団発生することがあり、一昨年は県内の施設で発生した集団発生において死亡事例もありましたので、注意が必要です。

ノロウイルスとは?

ヒトの小腸で増殖し、嘔吐や下痢などを起こすウイルスです。

感染性胃腸炎の症状は?

ノロウイルスの潜伏期間は24～48時間と言われており、下痢、嘔吐、吐き気、腹痛、発熱(38℃以下)が主な症状です。通常3日以内で回復し、発症しても風邪のような症状のみの場合もあります。

下痢や嘔吐の症状がある場合には、水分を多めに取るように心がけ、早めに医療機関で受診しましょう。

感染の経路は?

- ① ノロウイルスが大量に含まれる患者のふん便や吐物から、ヒトの手などを介して二次感染する。
- ② 家庭や共同生活施設など、ヒト同士の接触する機会が多いところで、ヒトからヒトへ感染する。
- ③ 食品取扱者(食品の製造等に従事する者、飲食店における調理従事者、家庭で調理を行う者などを含む。)が感染しており、その者を介して汚染された食品を食べた場合
- ④ 汚染された二枚貝を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合
- ⑤ ノロウイルスに汚染された井戸水などを消毒不十分で摂取した場合

感染の予防のためには

- ① トイレの後、調理をする際や食事の前には、よく手を洗い、使用するタオルなどは、清潔なものを使用しましょう。
- ② 食品は中心部まで十分に加熱してから食べましょう。(湯通し程度の加熱では、中心部のウイルスは死滅しません) また、生鮮食品(野菜、果物)は十分に洗いましょう。
- ③ 便や吐物の処理をする場合には、使い捨てのマスクやビニール手袋を着用し、ペーパータオルなどで静かに拭き取りましょう。拭き取った後の床などは、適正な濃度の塩素系消毒剤(次亜塩素酸ナトリウムなら塩素濃度約0.02%)で消毒を行いましょう。

千葉県内の感染性胃腸炎流行状況

「定点当たり報告数」は、県であらかじめ指定した医療機関(定点)当たり一週間にどれくらい報告があったかを表す数値

最新の流行状況については、千葉県感染症情報センターホームページをご確認ください。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/>



お問い合わせ 千葉県健康福祉部疾病対策課 感染症対策予防班 電話043-223-2691(直通)